

基地廃止後の配転問題について、非協力闘争の方針を決め

「よし、万全の体制ととったぞ!」と思って2月27日の大衆団交に臨んだら・・・



「異動については、本人の希望を最大限尊重します」と言ったので非協力闘争に突入しないで済んだ。

長田：支部が本気になって闘う体制をつくっていることは当局に伝わるからね。

山田：絶対に非協力闘争をやってやると思っていた。やってほしかった! (笑)

⇒労働者が退路をたった決断をしたときのものすごいパワー

長田：それが当局を追い詰めたんだよ。

⇒団結すれば勝てる!!

団交にいたる過程の闘いがそこまで押し込んだんだよ。

⇒日々の闘いが当局を追い詰める

岩瀬：組合員数が少なくても、団結して闘えば結果が出るといういい形が残った。

⇒労働者一人ひとりに変える力がある。

山田：行動力だよ。口でただ「反対、反対」というだけではなくて、支社に抗議にいったり、現場で抗議したり、人が動いて「こいつら本気だ」と見せつけることだよ。

⇒現場で動くことが当局を追い詰める。

■ われわれは勝利した!!

07年3月、館山運転区は廃止された。

けど、組合員の表情は明るい。

敵の最大の攻撃は、動労千葉の組合員をバラバラに、組織を破壊することであつた。

しかし、組合員はバラバラになることなくより一層の鉄の団結を固めることができた。

だから動労千葉のほうが勝利したのだ!! 敵の攻撃は破産した。



館山支部最後の日

労働者はときどき勝利することがある。しかしその勝利は一時的なものにすぎない。労働者の本当の成果は、直接の成功にあるのではなくて、労働者の団結がますます広がっていくことにあるのだ。

(共産党宣言 p23 | 13)



団結が総括軸

解雇・退学は敵の見せしめ程度

資本は賃金労働者の存在なくして成り立たないのであり、労働者への解雇攻撃の本質は脅しなのだ。解雇を恐れず団結して闘えば、労働者は必ず勝利することができる。動労千葉はそれを実行した。実行したからこそ勝利を実証したのだ。全員を解雇することなど絶対できない。ここに敵の弱点がある。

(前進 07年9月3日)

立ち上がる人が百人、千人と増えていった時、大学当局は処分できるでしょうか? いや、できません。それが団結の力です。(6.9 ワーカーズアクション 法大1年生の発言)